

## 4 こんなところが、気をつけるポイント

### 特別なニーズを持つ人がいることを知しましょう

災害時に特別なニーズを持つ人は、普段から支援を必要としている人です。例えば、以下のような方たちが挙げられます。

<p><b>DV被害者</b></p>  <p>配偶者からの暴力が発生したり、悪化したりする。避難所で探され遭遇し、危険な状態におかれます。</p>	<p><b>乳幼児</b></p>  <p>免疫力が未熟なことによる風邪の罹患、哺乳状況から脱水症状やオムツかぶれ等、衛生環境への配慮が必要です。</p>	<p><b>妊産婦</b></p>  <p>リスクのない妊産婦はいません。妊婦、産婦それぞれの影響を知り、配慮することが必要です。(P.15 参照)</p>
<p><b>介護を必要とする方</b></p>  <p>平常時の介護支援が受けられず、排泄や入浴なども困難が生じ、状態が進行する可能性があります。</p>	<p><b>性的マイノリティの方</b></p>  <p>生まれつきの身体の性と本人の性に関する認識が一致しないため、共同生活を前提とした避難生活に困難を抱えやすいです。</p>	<p><b>外国語を母国語とする方</b></p>  <p>日本語がわからない、多言語の表示がない、避難行動や避難生活で困難に直面します。</p>

### 被災者一人ひとりの多様性とは

性別、性自認、年齢、障がいの有無や種類・程度、国籍や母語の違い、家族構成や就労状況などにより、困難はそれぞれに違い、必要とする対策・支援は異なります。避難所の担い手には、当事者やその支援者の参画が不可欠です。

個人的な要因で起こっているように見える困難も、社会関係・文化・地域経済・環境など、被災者・被災地を取り巻く幅広い要因によって発生していることが多くあります。



【引用】「男女共同参画の視点で実践する災害対策 テキスト 災害とジェンダー<基礎編>」東日本大震災女性支援ネットワーク (2013年3月31日発行) p.24 図表 2-2 浅野幸子氏作成を一部編集

### ニーズとは？

災害支援で使われる「ニーズ」という言葉の意味は、社会福祉などの分野で使われるのと同じで「現在の状態と、こうあってほしい状態との間にあるギャップまたは不足」を指します。現状を変えて新しい状態をつくりだそうとするときに理解される要求がニーズです。

したがって、たとえ潜在的にニーズが存在していても、もしも私たちが現状しか知らなかったり、または現状を変えることなどできないと考えたりすれば、そこにニーズはない、ということになってしまいます。

【引用】「男女共同参画の視点で実践する災害対策 テキスト 災害とジェンダー<基礎編>」東日本大震災女性支援ネットワーク (2013年3月31日発行) (P.5) より

### ひと口に障害といっても多様で、必要な支援もそれぞれ違います。



障害のある方

●肢体不自由 ●視覚障がい ●聴覚障がい ●知的障がい ●精神障がい ●内部障がい  
障害の種類や程度によって、移動、情報の入手や発信、避難生活(劣悪な環境・物資の不足等の問題)と、さまざまな形で課題を複合的に抱えることとなります。また、女性の障害者は、女性であることと障害があることで、さらに直面する困難度合いが増すこととなります。

【参考資料】「避難所などでの障害がある人への基礎的な対応 あなたのまわりにこんな方がいたら」(DPI女性障害者ネットワーク作成リーフレット)



難病  
アレルギー疾患  
慢性疾患のある方

様々な病気がある中で、その症状と程度には、かなり幅があります。日頃は医療機関に通院しながらも社会生活を送ることができている人、在宅で治療・療養生活を送っている人で難病や慢性疾患のある方、また、アレルギー疾患の方も配慮が必要です。(アトピー性皮膚炎、喘息、食物アレルギーなどです。アレルギーの原因や症状は多様で、ほこり、食物、不衛生、薬の不足などで悪化します。食物アレルギー患者は、アレルギーの原因物質によりごくまれに、死に至るようなショック症状に陥ることもあります。) 東日本大震災の被災地では、高血圧、高血糖(糖尿病患者)といった慢性疾患の人の多くも薬の不足やバランスが悪い食事などで災害時に症状が悪化しました。

### 災害時に支援を必要とするのは、これらの人だけではありません

女性や子ども

暴力やハラスメント、ドメスティックバイオレンス、児童虐待が増加することがあります。災害時には女性や子どもの安全確保は優先順位が低く、平常時にもまして訴えにくいという状況が生まれやすくなります。

男性

気持ちを表に出せず、アルコール依存症などになる人が増加することがあります。

次頁から、みんなにとって安全・安心な避難所にするために災害時に実施することと、それらについて「重要な男女共同参画の視点」をまとめました。過去の事例や事前に調整すべきことを学んで、災害に備えましょう。



## 4.2 安心・安全・衛生面の確保

### なにをするの？

避難所運営マニュアル  
P28 環境衛生班

- 1 避難所内での環境衛生面での秩序の維持に努める。
  - ①避難所内の整理・整頓方法を示す。
  - ②避難所生活の中で、避難住民の理解を得ながら秩序の維持を確立(トイレの設置・運営・ゴミの処理方法等)する。
  - ③必要に応じた保安要員を確保しパトロール等を行う。⇒ 地域住民の協力
- 2 トイレ、生活用水に関するルール作りと周知に努める。  
※女性に過剰に役割が偏らないよう、男女共同で行うように配慮する。

### 事前に調整しておこう

- ✔ これまでの事例から、それぞれの避難所のどこで問題が発生しそうか検討し、安心・安全を確保するために必要な場所(女性専用のトイレや更衣室、物干し場など)を決めておきましょう。

#### 事例に学ぶ

- \* ぜんそくがあったので埃っぽい環境がなかった。
- \* 女性用物干し場がないため、こまめに洗濯できなかった。
- \* パンツやブラジャーなどの下着を洗い干す場所がなく自分の身体に着用して乾かした。寒い時期で非常に不快だったが、夫には理解してもらえなかった。
- \* 更衣室がないため、女の子や女性の多くは仮設トイレの中や毛布の中で着替えるしかなかった。
- \* 男性が裸になって着替えるので(平常時はセクハラになるのに)非常時だからと我慢しなければならなかった、怖かった。
- \* 障害があるため仮設トイレをうまく使えないので避難所にいられなかった。
- \* 耳が聞こえないために情報も十分に取れないので不安だった。常にだれか知っている人に情報を伝えてもらいたかった。
- \* 外国から結婚して住み始めて3年目の女性。日本語がうまくしゃべれないし読めないののでトイレに一人で行くことが怖かった。
- \* お風呂に入れないため、不衛生だった。自分の匂いも気になった。
- \* トイレが汚いため行くのを我慢していたら、便秘や膀胱炎になった。
- \* 照明の確保も十分でなくトイレを男女別でなかったの、音が聞こえてしまうことが気になるなどとても怖く苦痛だった。
- \* 段差があり和式がほとんどだったので、高齢者や障害者、けが人が使用できなかった。車いすの場合は厳しかった。
- \* 乳幼児とずっと一緒に行動しなければならず、トイレや食事、自分の身の回りの整理避難所運営への協力なども全くできず精神的に追い詰められうつ状態になった。

## 重要な男女共同参画の視点



### <防犯・予防>

- ✔ 女性や子どもに対する暴力等を予防するため、就寝場所や女性専用スペース等を巡回警備したり、防犯ブザーを配布したりするなど、安心・安全の確保に配慮しましょう。
- ✔ 暴力を許さない環境づくりや被害者への適切な対応を徹底しましょう。
- ✔ 更衣室・入浴施設などは、男女別とし、昼夜問わず安心して使用できる場所を選んで設置、照明を付けることは必須となります。安全に配慮して設置しましょう。
- ✔ 更衣室：化粧できないことがストレスになる人もいますので、更衣室の中に鏡などを用意しておくのもよいでしょう。
- ✔ 物干し場：下着などを安心して干せる場所を作りましょう。
- ✔ 例えば、間仕切りの設置方法や必要性、さらに、防犯体制、相談窓口の開設のほか、暴力防止のための仕組み、避難所生活の中で解決できないような課題を想定し専門機関等との連携体制について検討しましょう。マニュアルへの追記や専門機関の職員を招いて勉強会を開催しておく避難所運営に役立ちます。



### <トイレ対策>

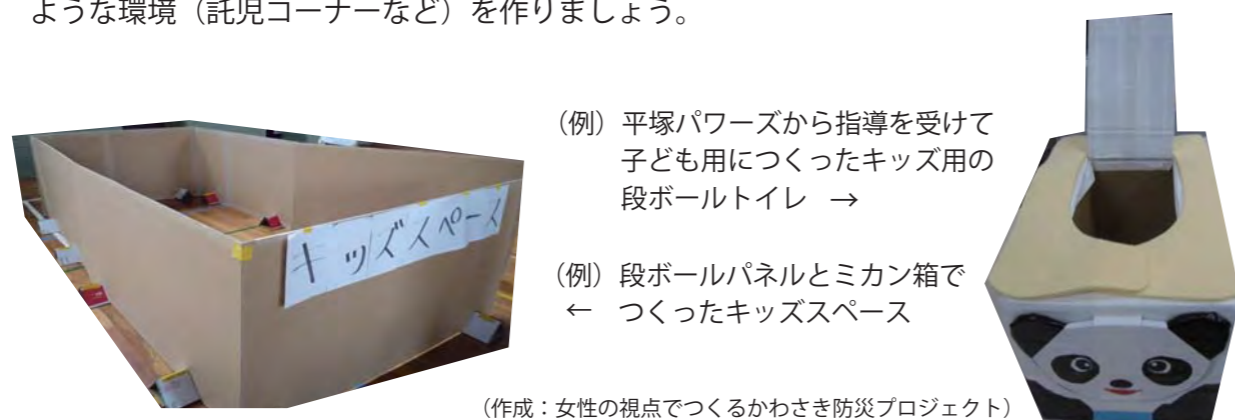
- ✔ 仮設トイレは、男性用と女性用の場所を離して設置しましょう。男性に比べて女性の方が混みやすいことから、女性用トイレの数を多めにしましょう。(目安として男性：女性=1：3) 仮設トイレの設置場所は女性の意見と移動が困難な高齢者や障害者と協議して決めることが重要です。
- ✔ 清掃やトイレットペーパーの補給、生理用品の渡し方など、維持管理の問題もあります。適切な役割分担は利用する側にも使いやすさを提供することになります。トイレの使用ルールのポスターを貼る等工夫しておくともよいでしょう。トイレ掃除も利用者で当番制にするなどしましょう。
- ✔ トイレは特に女性と少女の治安上の不安を最小限にできるよう配慮します。膀胱炎や外陰炎などトイレの我慢や生理時等に経血の処理が適切に行えない環境では婦人科系の病気にかかる可能性が高まります。そのため、生理用品を処理できるようにする配慮が必要です。プライバシーを確保し生理用布製品を洗濯・乾燥できるスペースを確保する等も考えておけるとよいでしょう。
- ✔ 多様なニーズに対応できるトイレの設置方法として、障害のある人や高齢の身動きがうまくとれない人、トイレが一人でうまくできない幼児、着替え場所もなく困っている女性や性的マイノリティの方で、男女別の更衣室やトイレを使用したくない人のために「着替え室兼車いすの人でも使えるトイレ」として広いトイレが一つ設置されるようにすると有効です。(公共施設などの多目的トイレのイメージ)。簡易トイレの周りに幕を貼るとか運動会用のテントを利用するなど予め検討しておくともよいでしょう。

<特別なニーズを持つ人への配慮>

- 授乳室：周りを気にせず授乳できるスペースを作りましょう。また、その中にオムツ替え用のスペースも作り、オムツを捨てるゴミ箱も設置しておくといでしょう。
- 妊産婦、乳幼児等の健康に配慮し、感染症予防対策を始めとして衛生的な環境を確保するための対策を行いましょう。

(1) 妊婦が直面する課題の例	(2) 産婦が直面する課題の例
お腹が張る、胎動が減る、増える、痛む、出血といった症状のほか、切迫流産・早産リスクや蛋白尿・体重増加・血圧上昇、浮腫などの妊娠高血圧症候群（妊娠中毒症）のリスクになり得る症状も。	母乳が止まる、減少するほか、乳腺炎になったり、おりものが増え、長期化する場合もある。発熱や風邪を引きやすくなる等の症状が出ることも。想像以上に慣れない育児と環境変化でうつ症状が出る場合も。

- 母乳育児中の母子については、母乳が継続して与えられる環境を整えましょう。母乳を与えることができない、または不足する場合には、哺乳瓶やお湯の衛生管理ができる環境を整えた上で粉ミルクを使用しましょう。
- 保護者がトイレや用事で出掛けるときに、乳幼児や高齢者・障がい者を一時的に預けられるような環境（託児コーナーなど）を作りましょう。



(例) 平塚パワーズから指導を受けて子ども用につくったキッズ用の段ボールトイレ →  
 (例) 段ボールパネルとミカン箱でつくったキッズスペース  
 (作成：女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト)

こんな訓練をやろう (避難所機能配置訓練)

- 事前準備**  
避難所となる学校内を見学できるよう、学校長と調整しておきましょう。避難所にどのようなものが備蓄されているか、一覧等で確認しておきましょう。
- 実施方法**
  - 学校内を見学し、死角になる場所・注意が必要な場所がないか確認し、図面に書き込んでいきましょう。
  - 現在決めている仮設トイレ・更衣室・物干し場・授乳室などの場所に、その機能を設置してみましょう。例えば、仮設トイレを組み立て、予定している場所に置いて、実際に座って体感してみましょう。
  - その場所が危険でないか、使い勝手は悪くないか等について話し合い、安心・安全を守るための再検討をしましょう。特に、実際に使う人の意見を聞くことが必要です。
  - 事前に準備するものや利用ルールも考えておきましょう。
- 用意するもの**  
学校内の図面、油性マジック・筆記用具、付箋

こんなところが気を付けるポイント

4.3 避難所の受付

なにをするの？

避難所運営マニュアル P24 情報広報班

- 避難状況や安否状況の把握等、情報収集に努める。
  - 単位町内会（自治会）ごとに避難してきた住民へ様式12「被災世帯登録カード」の記入を促し、避難者の状況把握に努める。
  - 災害時要援護者リストとの突合作業による安否確認に協力する。
  - 各地域の防災リーダー（役員等）に、作成した様式8「避難所状況報告書〔初動期用〕」又は様式9「避難所状況報告書」を配布し、被害の状況や避難者の状況を共有する。
  - 様式12「被災世帯登録カード」で、情報公開に同意しない方については、同意される方と混同しないように整理し、情報の取扱いに注意する。

事前に調整しておこう

- 受付をする際に気を付けるべき事項について、避難所運営会議メンバーで話し合い、共通認識を持っておけるよう文書にしておきましょう。
- 受付で把握する情報について、どのような様式を使用するか、どのように取りまとめをするかなど、知っておきましょう。
- 地域の名簿などがあると、受付をスムーズに進めることができます。その場合、保管場所は十分に検討しましょう。
- 保護者がいない子どもがいる場合、その状況を把握し、専門の施設に引き渡すまでしっかり保護しましょう。

事例に学ぶ

- \* 避難所で、DV加害者の男性と会ってしまった。
- \* 妊娠初期の女性が妊婦かどうか判断できず、気になってはいたが、聞きづらく必要な配慮をすることが難しかった。
- \* 知的障がいのある子どもがいたため、周囲に迷惑をかけることや本人が不安定になるため避難所での生活は困難で、避難所から出ざるを得なかった。
- \* 世帯単位での情報登録となっていたため、個人のニーズを把握することが難しかった。ヒアリングするにもその手順や方法がわからなかった。

こんなところが気を付けるポイント

## 重要な男女共同参画の視点



- ✔ 様式12「被災世帯登録カード」に記載する内容は、個人情報です。外部からの問い合わせに対する情報開示・非開示要望をきちんと聞き、適切な情報管理を行いましょう。
- ✔ 避難者の中に、配偶者からの暴力、ストーカー行為、児童虐待等の被害を受け、加害者から追跡されて危害を受ける恐れのある人が含まれる場合は、その加害者等に居所等が知られることのないよう、当該避難者の個人情報の管理を徹底する必要があります。
- ✔ 避難者の情報を聞きに来た人に対して、非開示を伝える方法を工夫する等の配慮が必要です。
- ✔ 避難所では、避難者の状況を把握する必要があるため、出入りする際は必ず受付に申し出ましょう。
- ✔ 避難所で生活する人だけでなく、自宅で生活し続ける人（在宅避難者）も出入りする際は受付をするようにしましょう。その際、在宅避難者がわかるように受付することが必要です。（受付テーブルを分ける、出入り口を分ける、カードの束を変える等）

### こんな訓練をやろう（被災者受付訓練）

#### 事前準備

受付時に利用する様式やとりまとめに利用する様式を確認しておきましょう。

#### 実施方法

- ① 受付となる場所に、「登録カード記入場所」「登録受付」等の机を並べ、利用する様式や筆記用具などを準備して受付を設けます。
- ② 案内誘導担当「記入補助担当」「受付担当」を割り振り、それぞれが何をするか、対応の流れを確認します。  
**案内誘導担当：**避難者役の住民を名簿記入場所に誘導します。（避難状況に応じて拡声器を使用）  
**記入補助担当：**名簿の書き方について補助を行い、書き終わった人を受付に移動させます。  
**受付担当：**記入された名簿を受け取り、記入漏れの有無を確認します。注意事項や伝達事項を伝えます。（例：避難施設や被災地から離れる場合は届け出る、在宅被災者もカードに記載する、避難所運営への協力依頼、など。また、このほかに受付で確認したいことがあれば、事前に整理しておきましょう。）
- ③ 参加者が交代で避難者役を務め、登録カードを記載し、受付を実施します。
- ④ カード登録後、すぐに避難所に入るのではなく、町会毎などに校庭内の決まった場所に待機し、ある程度まとまったら入るようにするとよいでしょう。
- ⑤ 記入された登録カードのとりまとめを行い、個人情報の取り扱いについて参加者全員で話し合います。

#### 注意事項

訓練で使用した名簿等には個人情報が含まれていることから、紛失することなく、訓練終了後に細かく裁断するなど、適正に処理しましょう。

#### 用意するもの

被災世帯登録カードなどの様式、腕章、筆記用具・マジック、ホワイトボードや模造紙など、受付用長机、椅子、受付用案内表示、拡声器（メガホン）、災害時多言語表示シート

## 4.4 支援物資の仕分けと管理、配布

### なにをするの？

避難所運営マニュアル  
P30 食糧物資班

- 1 災害の状況に応じた体制づくりに努める。
- ② 避難所の備蓄物資を確認し、その配分方法を決定する。
- ③ 必要物資の把握する。
- ④ 被災者の状況に応じて食料・物資の調達を早期に確立する。
- ⑤ 高齢者・障害者等の災害弱者の対応最優先する。
- ⑥ 公平な配分に努める。

### 事前に調整しておこう

- ✔ 届いた支援物資を保存・管理する場所を決めておきましょう。品目や数量を確認したり配布したりするためには、ある程度の広さが必要です。
- ✔ 目の届かない場所に置いた場合、「誰々が優先的に貰っている」などの噂が広がることもあります。体育館のステージ上など、みんなの目につきやすいところに置くのもいいでしょう。
- ✔ 在宅避難者への物資の配布について  
避難所にいない被災者や指定された避難所以外にいる被災者に対しての物資の提供については、あらかじめ検討しておくことが重要です。

### 事例に学ぶ

- \* 食物アレルギーのある子どもがいると伝えても、わがままとして特別な配慮はしてもらえなかった。
- \* 物資担当者は男性が多く、女性・女兒が必要な物資を受け取りにくかった。未成年の女兒の場合、よく知らない年配の男性には話かけづらかった。
- \* 化粧品や鏡がほしいということを何か月も要望できなかった。
- \* 中学生の女子生徒は避難所の物資配布においてリーダーの男性と顔見知りであったことでかえって言いづらくなり、生理用ナプキンをもらいに行けなかった。親に相談して他の人の分と併せて女子トイレにおいてもらうようお願いした。
- \* 震災時1週間から地域によっては1か月近くも外部の支援が十分届かなかったため、食料確保も食事の支度も女性が固定され長期化し自宅の片づけや自分の身の回りのことができない状況が続いた。
- \* 避難所のリーダーが男性ばかりで、必要な物資の要望を言えなかった。言っても重要度を理解して貰えなかった。
- \* 全員分揃うまで配布しないといわれて、子どもたちがおなかをすかせて泣いて大変だった。
- \* お米をおかゆにして好きな分量をもらうことができたという避難所もあった。
- \* 赤ちゃんの泣き声や障害のある子どもの行動が周りに迷惑をかけるので避難所にいられず出たが、食料や物資をもらいに行っても「避難所に暮らしていない人には弁当や物資をもらう資格はない」と断られた。

## 重要な男女共同参画の視点



- ✓ 避難所での生活が長期化する場合には、男女のニーズの違いのほか、妊産婦・乳幼児・食事制限のある人等の多様なニーズを把握し、物資の調達及び供給を行きましょう。多様なニーズを把握するために、民間支援団体等と連携しニーズを把握したり、声を拾うための意見箱設置等の工夫を行きましょう。
- ✓ 生活必需品として必要にもかかわらず、気づかれにくい・要望を上げにくいものとして以下のようがあります。みんなに必要なものとそれぞれに必要なものについても検討しておくといでしょう。災害時には女性や子どもの安全確保は優先順位が低く、平常時にもまして訴えにくかったと過去の震災の経験談にはありました。まずは、避難所において女性や女兒に必要な用品の共有と配布の対応を想定できているかどうかを点検するところから始めましょう。

### 気づかれにくい！ 要望をあげにくい必要物資の例



- 女性：**生理用品＋生理用ショーツ、下着(カップ付ブラなど)、携帯用ビデ、おりものシート(下着代わりに交換して使用)、尿もれパッド、鏡、ブラシ、ハンドクリーム(冬)、鏡、ブラシ、化粧品、防犯ブザー
- 妊産婦：**妊産褥婦用の衣類や下着、授乳カバー、マスク
- 乳幼児：**粉ミルク、哺乳瓶(粉ミルクとセットで用意が必要)、ウェットティッシュ、離乳食、スプーン、紙コップ、オムツ＋おしりふき、おんぶ紐
- アレルギー患者：**マスク、食物アレルギー対応食品・ミルクアレルギー用ミルク、刺激の少ない、ウェットティッシュ
- 高齢者：**高齢者食、老眼鏡、杖
- 男性：**髭剃り

- ✓ 生活必物資を配布する際、生理用品や下着等の女性用品については女性の担当者から配布したり、袋に一人分ずつまとめて配布したり、女性専用スペースや女性トイレに常備したりしておくなど、配布方法を工夫しましょう。
- ✓ 食料や炊き出し配布の際は「食物アレルギーの人はいませんか」など確認をするようにしましょう。また、アレルギーや持病、宗教上の理由などで食事に制限がある人が、自身で調理できるような場所も設けましょう。
- ✓ 過去の震災で避難所運営者が食物アレルギーの子どもへの配慮として、食事を提供する際に使った食材を書き出して表示して伝えた避難所がありました。食物アレルギーの子どもへの配慮についても検討しておきましょう。

- ✓ 虐待を受けている子どもや障がい者・高齢者などの場合、配布された支援物資が保護者に取り上げられたりすることがあります。支援物資が個人に行き届くよう運営上の配慮をしましょう。
- ✓ 災害時の混乱した状況では、避難所に支援物資が届く時間は決まっていないため夜中に物資が届くこともあります。届いた物は、避難所のメンバーで荷下ろしをする必要があるため、担当をローテーションで決めておきましょう。
- ✓ 災害時は固定的性別役割が強まる傾向があります。食事の支度についてはチームをつくりローテーション制にする、負担が3日に1度で済むようにして体を休めたり、自宅の片づけ等ができるようにしたケースもあります。中学生などにも食事作りに参加してもらったり、手の空いている男性にもできることを担ってもらうよう声をかけて体制を変更する例などもありました。週末、連休等には災害ボランティアといった外部支援を活かすことも考慮しておくといでしょう。まずは、炊き出し配食を「女性の仕事」と決めず、みんなで分担して行うということから決めていきましょう。

### こんな訓練をやろう (救援物資受け入れ、配布訓練)

#### 事前準備

避難所レイアウトで、支援物資を保管する場所や配布する場所が検討されているかどうか、確認しましょう。

#### 実施方法

- ① 救援物資の受け入れ方法について話し合い、仮のルールを作りましょう。
- ② ダンボール箱(参加者に配布できる防災備品等が入った箱、無い場合は空の箱など)を救援物資に見立てて、1箇所に集積しておきます。
- ③ 救援物資が到着したことを想定して、品目ごとの数量確認と記録を行います。
- ④ 救援物資は、あらかじめ定めた保管場所まで、人力やリヤカーなどで搬送しましょう。
- ⑤ 保管場所では品目ごとに分類し、食品などは梱包している段ボール等の見やすい位置に消費期限を記載します。
- ⑥ 配布方法を話し合い、机などで配布場所を作ったら、参加者を被災者に見立てて配布を行います。(避難者への配布確認は、「避難者名簿に印を付ける」「引換券を準備し配布時に回収する」などがあります。)
- ⑦ 避難施設まで取りに来られない在宅被災者に対して、どのように物資を届けるか検討しましょう。

#### 注意事項

配布する際のお知らせ方法や各人の役割などについても検討しておきましょう。

#### 用意するもの

救援物資に見立てた防災備品のダンボール箱や空のダンボール箱など、リヤカーなどの搬送器材、可能であれば救援物資搬送トラックに見立てた車両、災害救援物資受入票・払出票、軍手、防災ヘルメット、動きやすい服装

## 4.5 心のケアと健康チェック・相談機能

### なにをするの？

避難所運営マニュアル  
P22 総務班

#### 3 避難所の運営

##### ③避難所内の秩序の維持に努める。

☆必要に応じて保安要員を確保し、パトロールを行う。⇒（地域住民の協力）

##### ⑦避難者の精神的負担を少しでも軽減するよう、避難所内の秩序を維持する。

##### ⑬避難所内の秩序を維持するため夜間の巡回を行う。

### 事前に調整しておこう

- ☑ 避難所内に相談コーナーを設けましょう。プライバシーが確保され、診察・相談等が行えるような個室やパーティション等を活用したスペースが有効です。
- ☑ 相談コーナーには、相談員を配置できるようにしておきましょう。
- ☑ 気軽に集まっておしゃべりができるようなコーナーを設置しましょう。

#### 事例に学ぶ

- \* 相談を女性達に取りまとめることにしたため、女性だけでなく子どもや高齢者も相談しやすくなった。
- \* 栄養の偏りが原因で、口内炎が出来たり貧血になったりした。

### 重要な男女共同参画の視点

- ☑ 妊産婦や乳幼児は保健上の配慮が必要なため、妊婦・母子専用の休養スペースを確保し、食事や保温等の生活面で配慮することが必要です。それぞれの時期や月齢、個々人によっても差があるので、医療や保健・福祉等の専門家と連携して、状況に応じた対応を行えるようにしましょう。
- ☑ 同性のほうが相談しやすいこともあるので、相談員は男女両方を配置しましょう。
- ☑ メンタルケアや健康問題等については、専門職との相談・調整が必要になる場合もあるので、専門職との連携も図りながら対応しましょう。保健師や看護師・医師による健康チェックの際に、心のケアが必要そうな人（ふさぎ込んでいる、笑わなくなった等）を伝え、話を聞いて貰うのもいいでしょう。
- ☑ 避難所運営を行っている人たちは、自身や家族が被災している状況で、運営上の判断事項や処理事項に対応しています。運営メンバーは、ローテーションを組み休める時間を作りましょう。また、運営メンバー同士でミーティングを行い、感情を共有することで、嫌な思いを抱えすぎたりすることを解消することができます。そのような時間も積極的に作りましょう。
- ☑ 禁煙、禁酒によりストレスが高まる人もいますので、時間や場所などのルールを決め、ストレスを解消することも必要です。

- ☑ 同じ境遇の人（妊婦、子育て家族など）が集まって、ゆっくりおしゃべりできるような場を作るのもいいでしょう。
- ☑ 心のケアのための無料電話相談などがあれば、広く周知しましょう。

### ボランティアや専門家、専門機関との連携

ボランティアや専門家の方たちが、被災者の支援活動を行う中で、避難所で女性の生活環境上の困難や必要な物資の種類・配布方法、固定的性別役割の問題、性的嫌がらせや暴力、DVと思われる状況が起こっていることを見聞きした等それぞれの立場から気づく点、気になる点等。

ボランティアから提起された課題・問題は、女性・男性両方の立場からその背景を冷静に読み解き直した上で、慎重かつ積極的に対応を検討することが大切です。特にセクハラや性暴力に関しては「その程度」「個人的な感覚の問題」だと軽視せずに実情をきちんと把握し対応することが求められます。その際には、スタッフが関係者に話を聴く場の工夫や情報管理の徹底など、プライバシーを考慮し、必要なら専門家にすぐつなげるといった対応が必要です。

一方で、ボランティアに対してもボランティアが環境上の不安・課題を抱えないようにトイレの有無、入浴設備の有無、宿泊所の環境（着替え可能な場所があるか、寝る場所が男女別かどうか）、ボランティア間や被災者との人間関係なども想定しておくとい良いでしょう。

行政機関と連携したり、NPOや地域グループとの連携内容や災害時の対応についての情報を平常時に把握し、適切な連携ができるようにしておくことで効果的な支援活動を引き出すことができます。

### こんな手法があります（傾聴）

災害で被災した場合、恐怖や不安でストレスが高くなります。また、災害への対応が進みだすと、子どもや高齢者は孤立しがちになり、震災によって多くのトラウマができてしまうことがあります。このような被災者の心を癒す手段の一つとして、「傾聴（人の話に耳を傾ける）」という手法があります。

「傾聴」は、単に話を聞く「会話」とは違い、相手の心をくみ取り寄り添うもので、コミュニケーションの中で最も重要な技能とされています。

災害時における傾聴の専門的な知識は、NPOや自治体が発行する「傾聴ボランティア養成講座」や「メンタルサポーター講座」などで、専門家と一緒に勉強しておきましょう。

#### 傾聴のポイント

一方的に話したり、話を理解しないまま話したりせず、まずは聴き上手になりましょう。また、言葉だけでなくその裏にある感情も考え話を聞きましょう。

##### ①話を聞く態度

相手が話しやすい雰囲気を作り、気持ちをくみ取って、それに合った反応を示すことが重要です。

##### ②あいづち・うなずき

相手の話に反応して「話を聞いていますよ」ということを伝え、話が弾むようにするためには、タイミングよくあいづちをうち、わかりやすいように大きくうなずくことが重要です。

#### 注意事項

ストレスが高い場合は、専門家による個別面談をすすめましょう。また、傾聴ボランティアを行う人たちのストレスについても、考慮が必要です。

## 5 避難所チェックシート

### 女性や子育て家庭に配慮した避難所の開設

- 異性の目線が気にならない物干し場、更衣室、休養スペース等
- 授乳室
- 間仕切り用パーティションの活用
- 乳幼児のいる家庭用エリア
- 単身女性や女性のための世帯用エリア
- 安全で行きやすい場所の男女別トイレ（鍵を設置）・入浴設備の設置  
(仮設トイレは、女性用を多めにすることが望ましい)
- ユニバーサルデザインのトイレ
- 女性トイレ・女性専用スペースへの女性用品の常備

### 男女共同参画の視点に配慮した避難所の運営管理

- 管理責任者への男女両方の配置
- 自治的な運営組織の役員への女性の参画の確保(女性の割合は少なくとも3割以上を目標)
- 女性や子育て家庭の意見及びニーズの把握  
(民間支援団体等の協力によるニーズ調査、意見箱、女性リーダーによる意見の集約等)
- 女性用品(生理用品、下着等)の女性の担当者による配布
- 避難者による食事作り・片付け、清掃等の役割分担  
(男女を問わずできる人が分担し、性別や年齢によって役割を固定化しない)
- 避難者による食事作り・片付け、清掃等の役割分担  
(男女を問わずできる人が分担し、性別や年齢によって役割を固定化しない)
- 相談体制の整備、専門職と連携したメンタルケア・健康相談の実施  
(個室やパーティション等を活用し、プライバシーを確保したスペースで実施)
- きめ細かな支援に活用できる避難者名簿の作成及び情報管理の徹底(氏名、性別、年齢、支援の必要性(健康状態、保育や介護を要する状況等)、外部からの問合せに対する情報の開示・非開示の可否、等)
- 配偶者からの暴力の被害者等の避難者名簿の管理徹底
- 就寝場所や女性専用スペース等の巡回警備、暴力を許さない環境づくり
- 防犯ブザーやホイッスルの配布
- 不安や悩み、女性に対する暴力等に対する相談窓口の周知、男性相談窓口の周知

出典：内閣府男女共同参画局 平成 25 年 5 月  
男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針 解説・事例集より抜粋

## コラム

### どうしたらいろんな人が訓練に参加できるようになるの？

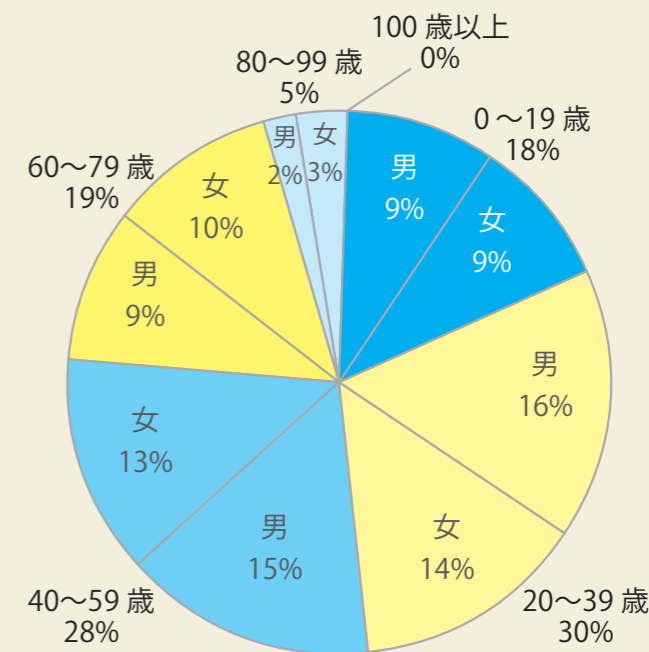
地域の自主防災組織の方とお話する際、こんなことがよく話題になります。  
「防災訓練をやって、いつも同じ人しか来ない。」  
「参加者のほとんどがお年寄りで、若い人がなかなか参加してくれない」  
みなさんの地域ではいかがでしょうか？

川崎市の年齢別人口構成を見ましょう(右図)。

防災訓練に積極的に参加している60代以上の人口は、全市民の1/4を占めています。学校で避難訓練などの防災訓練を行う就学世代を除くと、20代から50代までの約6割の市民は、訓練になかなか参加できない、または参加しない人が多いようです。この年代は、子育てや仕事など日々の生活が忙しく、平日の訓練に参加するのが難しいのはもちろん、休日に訓練を実施してもなかなか参加できないのが現状です。

しかし災害が発生した場合、訓練に参加している・していないに関わらず、同じように被災することになります。この世代が防災訓練へ参加できるようにするには、どのような工夫をしたらいいでしょう？

平成 25 年 川崎市 年齢別人口



#### 子育て世代の場合

子育てサロンや幼稚園・保育園に通う保護者宛に、訓練のお知らせを配ってみましょう。「子どもたちを守るため」に訓練に参加してみたいけれど、知らない人ばかりのところに参加するのは…という方も、同じような仲間がいれば誘い合って参加してくれる可能性があります。



#### 働き盛り世代の場合

地域の企業に、訓練のお知らせと参加依頼をしてみましょう。災害時の初動活動(消火活動や人命救助など)には人手が必要です。同じ地域で活動している企業からの支援も大きな力になります。  
また、企業では災害時に活用できる機材を持っていたり、その機材を動かす技術を持っている人・救命講習を受けている人がいたりする場合もあります。訓練に参加してもらうことで、関係性を高め、災害時に助け合える関係を作っておくことが重要です。



普段の声かけで人が集まらない時は、「どういう人に参加してもらいたいのか？その人たちはどこで活動しているか？」を考え、積極的に発信をしていきましょう。



## 6 おわりに

このガイドを利用して、それぞれの地区で以下のような点検をし、必要に応じて訓練を工夫したり、各運営会議の所有する避難所運営マニュアルに明記したりしましょう。

### 避難所開設訓練の参考に

発災する季節や時間帯によって違うこと、地域ごとにも異なることを視野に入れ、避難所における課題・問題点、さらに必要な配慮について運営者間で確認、共有した上で訓練の実施目的と内容を決めましょう。運営者だけでなく地域の一般参加者へも呼びかけができるような組立てとすることも有効です。訓練だから、緊急時だからということで課題を先送りすることがないよう、時間とともに変化する被災者の状況や違いを、できるだけ確に詳しく理解できるようにするためには、日頃の地域での取り組みの中に多様な参加者と共に考え知恵を出し合い共通認識を持つような工夫をしていけるといいですね。

川崎市男女共同参画センターでは、「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト」(市民グループ)と協働して、次のようなサービスを提供しています。

- ① 「女性の視点でつくる防災ニュースレター」を作成・配布
- ② 「避難所運営等の防災関連講座」の企画・開催 (年4回程度)
- ③ 避難所開設訓練用のポスターや男女共同参画の視点からの解説資料(展示物などの貸出し：2014年9月～スタートします。)
- ④ 男女共同参画の視点から選んだ書籍や防災関連資料の貸出し  
※③、④はいずれもお申し込み先着順で貸出します。貸出し期間は1ヶ月を目安としますが、ご相談下さい。
- ⑤ 防災冊子の配布 「女性の視点で作った防災手帖(シニア版)」及び「災害時のトイレ事情と対策編」(WEBよりダウンロード可)



詳細は『すくらむ21』までお問合せください。

川崎市男女共同参画センター(愛称：すくらむ21) 防災担当

代表電話：044-813-0808

E-mail：scrum21@scrum21.or.jp

すくらむ21のホームページからもご覧いただけます。

すくらむ21 防災

検索



## あなたにとって重要な場所・必要な物は？

災害時に重要な場所は、それぞれ違います。どんな人たちとどこに集まり活動するのか、どこへ避難したらいいのかなど、確認しておきましょう。

また、災害時に大切な物もそれぞれ違います。自分に必要な備蓄品をしっかりと把握し、準備しておきましょう。

あなたの家	川崎市 区
自主防災組織	
一時避難場所	
広域避難場所	
避難所	学校
家族との集合場所	
家族との集合場所	規格やサイズがあり直ちに支援が届きにくいもの。 例：眼鏡、ストーマ装具